■荻生徂徠(物茂卿)　**儒学者。原典に立ち返る独自の思想で学派を確立，観念より実利を重んじ，将軍以下広く影響を及ぼした。**
おぎゅうそらい
酒井忠清大老1666＝　江戸二番町で，漢方医で儒学者の荻生方庵の次男に生まれる。

・・・・・・1671＝ 5歳：この年，**_父がのちに将軍となる館林藩主徳川綱吉の侍医となる。**

_父から日課を与えられて，幼くして漢籍に通じるようになり，外祖父鳥居忠重から大内流軍学を学ぶ。

談林派俳諧・1675＝ **9歳：**

・・・・・・1677＝11歳：**_林鶯峰に入門するが，**

越後騒動・・1679＝13歳：**_父が館林藩のお家騒動に巻き込まれて流罪となり，一家で，母の実家上総国本納に移住。**
徳川綱吉将軍1680＝14歳：母が死去。この年，**_綱吉が将軍となる。**

八百屋お七・1683＝17歳：一家で横地下村に移住。祖母が死去。長兄春竹は本納村に残り，医者として生涯を送る。
堀田正俊暗殺1684**＝18歳：**
この間，円頓寺覚眼からなにかと援助され，借りた「四書大全」などを読む。

生類憐令始・1687＝21歳：
_辛苦のうちに田舎で過ごすうち，伊藤仁斎の学に関心を抱いて独自の思想を抱くようになり，
自らの祖先を物部氏と考え，元服時以降，物茂卿と名乗り，のち主著には物茂卿と自署。
湯島聖堂・・1690＝24歳：(この年，江戸帰還説も)。

世間胸算用・1692＝26歳：***父が赦免され，上総より江戸に帰ると，芝増上寺付近に住み，豆腐屋の裏に塾を開き，おからで糊口を凌ぎながら，儒著としての活動を始め，舌耕生活を入る。やがて，講義が僧らに衝撃を与えて評判となり，**
奥の細道・・1693**＝27歳：**
生類憐令頂点1695＝29歳：
荻原勘定奉行1696＝30歳：旗本三宅孫兵衛の娘休と結婚。***父方庵が幕臣に登用されると，自らも柳沢吉保に仕える。柳沢邸で将軍綱吉に拝謁，綱吉をも一目置かせる学力を示し，以後は柳沢邸や江戸城中でたびたび綱吉に拝謁する。**
・・・・・・1697＝31歳：この年，父が法眼となる。
藩公用日誌の編纂，将軍綱吉から吉保に預けられた小姓衆の教育に従事。また政治上の諮問にあずかり綱吉の学問相手も務め，吉保夫人にも「論語」講義。この間，5人の子が誕生するも，全て生後まもなく夭折。
松の廊下事件1701＝35歳：この年，柳沢藩蔵版「五史」刊行開始。江戸城中で浅野長矩が吉良義央に斬りかかって切腹となり，
赤穂浪士討入1702**＝36歳：**この年，浅野の遺臣大石良雄らが吉良を討つ赤穂浪士事件となる。
赤穂浪士切腹1703＝37歳：**_柳沢吉保が創立した藩校文武教場の教授に迎えられる。論争となった赤穂浪士処断に優れた献言。**
団十郎刺殺・1704＝38歳：伊藤仁斎に心こめた手紙を送って，疑問の箇所について問うたが，返事は来ず。父方庵が隠居し，弟の観(北渓)が相続する。
御蔭参流行・1705＝39歳：妻と死別。山県周南が入門。仁斎が死去。この頃，李攀竜・王世貞の文集入手，発奮し古文辞研究志す。
・・・・・・1706＝40歳：父方庵が死去。この頃，安藤東野が入門。
富士宝永噴火1707＝41歳：仁斎の弟子らが「古学先生碣銘行状」刊行した際，自らの手紙も公開されてしまい。感清を害する。
徳川綱吉没・1709＝43歳：***将軍綱吉の死去による吉保の隠居に伴い，藩邸を出て，茅場町に居宅を構え家塾(けん園塾)を開く。**
_以後も柳沢家から禄を受け続けるうち，次々俊秀が弟子入り，僧侶や大名も門人に加わり，詩文の添削を請う者も多くなる。仁斎の堀河学派や新井白石・室鳩巣らとライバル関係に立つ。
冥途の飛脚・1711**＝45歳：**服部南郭，太宰春台が入門。**_中国語に堪能な岡島冠山を訳士として{訳社}をスタートさせる。**
和漢三才図会1713＝47歳：佐々立慶の娘と再婚。牛込に移る。
絵島事件・・1714＝48歳：吉保が死去。**_藩命による綱吉一代記「憲廟実録」が完成。仁斎学を厳しく批判した「けん園随筆」刊行し，**
国姓爺合戦・1715＝49歳：娘が誕生直後に死去，産後の肥立ち悪かった再婚の妻とも死別。結局，長兄春竹の子道済を嗣養子とすることになる。**_前年刊行開始の「訳文筌蹄」全六巻完結して，一躍文名を馳せる。**
徳川吉宗将軍1716＝50歳：
隅田川の桜・1717＝51歳：**_長年の儒典研究の最初の成果「弁道」を完成。「弁名」も完成か。「徂徠先生学則」もまとめたか。**
御蔭参流行・1718＝52歳：肺病で喀血する。
・・・・・・1719＝53歳：安藤東野が死去。
洋書輸入解禁1720**＝54歳：**神楽坂の赤城町へ転居。娘を失って，兄の子三十郎(金谷)を養嗣子とする。この頃，**_「論語徴」完成か。**
小石川薬園・1721＝55歳：居宅が火災に逢い，市ヶ谷大住町に移転する。**_将軍吉宗の下問に応じ「太平策」を献呈，最初木下順庵に命じるも，順庵が中国の通俗文を理解できずに断念した「六論衍義」に訓点を付す。**
・・・・・・1722＝56歳：**_官儒としての登用を内命されるも辞退。御隠密御用となり，内密に政治上の諮問に答えるため，毎月3度，有馬兵庫頭氏倫の邸に出向。将軍吉宗の命で，その侍医で明律研究で知られた実弟北渓の助力も得て，維新後も参考にされた「明律国字解」，祖父から習った軍学にもとづく「孫子国字解」などを著す。**
近松没・・・1724＝58歳：「韻概」成る。
懐徳堂公認・1726＝60歳：**_"隠密御用"の一環として，幕政全般の改革にふれた桁違いの幅を持つ「政談」を執筆献呈した。**
・・・・・・1727＝61歳：***吉宗に拝謁(陪臣として異例)。この年「徂徠先生答問書」「学則」を刊行，軍学書「鈐録」をまとめ，**
徂徠没・・・1728＝62歳：江戸で，**_没した。**
中野剛志によれば，荻生徂徠は，日本の儒教思想史，江戸期の思想史において，間違いなく最もスケールの大きな思想家とみなされ，戦後も，丸山真男がとりあげたことで，大きな影響を及ぼしたが，近年，その評価が落ちてきているのは，彼が，徹底したプラグマティストであったことによるらしい。

中公新書「荻生徂徠」，疋田啓佑「儒者」，中公シリーズ「日本の名著」，叢書・日本の思想家，「この人どんな人」，「没年日本史人物事典」，「日本の群像」，平凡社百科事典，山田風太郎「人間臨終図巻」，「目でみる日本人物百科」，歴史有名人の死の瞬間，日本の古典名著，